

network ねっとわーく 厚生

vol. **3**
2007. 5
財団法人山梨厚生会
山梨厚生病院



- 平成19年度のスタートにあたり
- 今年度運営目標から
今年度、病院はこんなことにチャレンジします!
- 各科だより …… 消化器内科
- こんにちは薬局です。
- ニューフェイス紹介
よろしくお願ひします!
- その他 ……



■ 編集・発行 ■

山梨厚生病院 広報委員会
TEL 0553-23-1311
URL <http://www.kosei.jp/>

平成19年度スタートにあたり



財団法人山梨厚生会 理事長 有 泉 憲 史

平成19年度がスタートしました。本年度、全国では75万人の新社会人が誕生し、山梨厚生会では28名の新入職員を迎えました。どの組織でも同じだと思いますが、社会生活の第一歩を踏み出す人達を迎え入れる側の責任も重大です。「社会人とはなにか」「仕事とは何か」ということを伝えようとする事は、自らの原点を見つめなおすことに他なりません。

社会の中で働き産み出されたものは、もう一度社会に還元していきます。私達の仕事は、市民の健康を守り、新しい命の誕生を支え、体や心の痛みを取り除き、病気に悩む人を1日でも早く本来の生活に戻れるように努力することで社会に還元していきます。

今、医療環境は、かつてないほど深刻な事態に直面しています。こうした状況が続くとそれぞれの立場や主張が蔓延するばかりで、物事の本質的な部分を見失うことになりかねません。医療情勢がどうであれ、市民の健康を守ることが私達の仕事の本質です。

このような状況で、今一番信頼できる確実な力は何でしょうか？広報誌でもその一部を紹介してきましたが、当会には素晴らしい人材が大勢おります。私達の病院は、長い歴史を通じて自力で培ってきた力、逆境にも対応しうる確実な底力があります。私達はこの「職員力」を結集し、全力でこの地域の医療の砦を死守すべく取り組んでいきます。最後に今後私達がなすべき役割を明確にしておきたいと思えます。

1. 中央の医療機関と同質の急性期医療の体制を維持するため、循環器・呼吸器・消化器・脳神経系の各内科医及び外科医、他全科の医師が全力で努力してまいります。また、県内4ヶ所の地域がん診療連携拠点病院の1病院として、上記の各臓器の専門性に特化した、質の高い医療を提供していきます。
2. それに続く専門的な回復期リハビリを行い、次の段階、すなわち在宅療養・介護に向けて、他機関との連携や今後関連施設の機能転換も視野に入れて組織の運営にあたります。
3. 健診事業により病気を予防することを重視し、糖尿病をはじめとした成人病医学への取り組みを専門医の指導下に強化していく様に努力します。
4. 開業医の先生方との連携を強化・役割分担し、また、かかりつけ医的存在でべき地医療にも責任を担ってきた自治医大出身医師と共に、在宅医療と病院間の距離を縮めるための努力・工夫をすすめてまいります。
5. 集約化された夜間診療外の一般小児医療の充実をなお継続していきます。
6. ハイリスク分娩以外の産科医療継続の可能性について、関係各位と協議を続けてまいります。
7. 地域災害拠点病院として、災害時への対応の準備・訓練をすすめていきます。

今年度の病院運営目標

院長 千葉成宏

病院の理念実現のために、今年度の重点目標を以下のよう
に設定しました。地域の皆様にこれを公開することで、より
真摯な取り組みと達成に向けての具体的な作業が行われるこ
とを期待しています。

当院は今年 1 月、峡東地域のがん診療の拠点病院として
国の指定を受けましたが、がんに限らず医療全般の中核的存
在として、地域市町村、医療機関、しいては地域住民の方々
との連携をより一層強化してまいります。「病院機能評価機構」に
よる機能評価受審については、数年前から取り組みを行ってき
たところですが、認定証を取得することよりも、この取り組みを通
じて病院の診療の質を高めることが 1 番のねらいですので、継
続して取り組みたいと考えています。

どうか今年度も倍旧のご支援をよろしくお願いいたします。

平成19年度病院運営目標

★ 地域連携の推進

- ・ 地域連携パスの推進
- ・ がん診療連携システムの確立
- ・ 市民公開講座の開催

★ 情報システムの整備

- ・ 院内情報伝達システムの再編
- ・ オーダーリングシステムの整備
- ・ 診療内容の広報の充実

★ 病院機能評価への取り組み

- ・ 各種マニュアルの整備
- ・ 標準ケアプロセスの整備
- ・ 診療録の整備

★ 経営の効率化

- ・ 医療安全の更なる推進
- ・ 診療機能の充実、整備及び人材の確保
- ・ 経営指標の導入

「がん診療連携拠点病院」の指定を受けました

副院長 山寺陽一

平成 19 年 4 月に、「がん対策基本法」が施行されました。国民の 3 人に 1 人が、がん患者になる時代に、全
国のがん医療の質の向上と、均てん化を図る取り組みが本格化します。

“均てん化”あまり聞き慣れない言葉ですが、その意味は「(生物が等しく雨露の恵みにうるおうように) 各人が平
等に利益を得ること」(広辞苑) だそうです。「全国どこにいても一定レベル以上のがん治療を受けられる医療制を
整備すること」と言えます。

この第一歩として地域におけるがん治療の中核を担う「がん診療連携拠点病院」が設けられました。平成 18
年 2 月以降、順次国より指定基準を満たした医療機関がその指定を受けており、山梨県では、都道府県におお
むね 1ヶ所整備する「都道府県がん診療連携拠点病院」として県立中央病院が、また保健所単位の医療圏ごと
に設ける「地域拠点病院」に山梨厚生病院、山梨大学付属病院、富士吉田市立病院の 3 病院がこの指定を
受けることとなりました。

拠点病院は、現在(平成 19 年 3 月時点) 全国で 286 施設あり、地域の他医療機関及び保健所等との連携
を強化し、情報を共有化することでがんの早期発見に努め、さらに患者さんへの正しい情報の提供、ご家族への
支援体制の充実に努めるものです。当院は、峡東地域の拠点病院として本年 1 月に厚生労働省より指定を受け、
拠点病院としての活動を本格的に始めています。その活動とは、がん診療機能の更なる充実は勿論のことですが、
次の 3 点が大きな柱となっています。①「がん登録」(がんの発生数や特徴、治療方法、その後の経過等のデータ
の収集と蓄積作業)②「緩和ケア医療体制」の構築③「相談支援体制」の強化、です。①と②については、後日
改めてご説明させていただくとして、今回は、皆さんに直接、あるいは身近に関係します③「相談支援体制」の強
化について担当よりお話をさせていただきます。

～総合相談センターについて～

副センター長 水上 みや子

当院の医療福祉相談室が、4月より改編され「総合相談センター」という名称になりました。峡東地域の「がん診療連携拠点病院」として相談支援体制をより一層強化するための組織改編です。当センターでは現在、6名の社会福祉士あるいは精神保健福祉士（医療ソーシャルワーカー）が相談支援にあたり、業務内容は、医療費の問題、介護保険の利用、福祉制度、生活保護の申請等々多岐にわたっています。さらに今後は「がん」の診断を受けた患者様やご家族が困難な問題に直面した場合、以下のような3つに大別された内容に沿った、相談支援を進めてまいります。

1. 「がん」と診断され、病気や治療に関する正しい知識や医学的な情報の提供
2. 「がん」治療の効果・経過に対する不安、生活への不安、将来への不安等への精神的なサポート
3. 「がん」治療に係る治療費を含む経済的な悩み、在宅での生活、介護の方法、福祉制度の利用方法についての紹介や援助

現在、センターでは相談支援フローチャートを作成し、相談に迅速に対応できるよう院内はもちろんのこと地域医療機関とも連携がスムーズにとれる体制整備を行っています。なかでも、当院精神科医師と臨床心理士が緩和ケアチームメンバーの一員として加わり、精神的なサポートの面では充実した体制が整いつつあります。今後、センターのスタッフ一同は、日々研鑽を積み、患者様やご家族の不安や悩みをくみ取り、心に寄り添いながら、質の高い相談や支援が出来るよう努力していきたくと思います。

個人の情報保護を厳守しプライバシーは守られます。皆様も一度ドアをノックしてみてください。



病後児保育所「ひまわり」のご案内



院内保育所長 中村 寿美江

当院の保育施設は、主に看護師さんを対象に病院で働くお母さんをバックアップする為に設立されました。現在、乳児クラス(0～1.5歳)「ひよこ組」と幼児クラス(～3歳)「リス組」の2クラスで、1日平均10名程のお子さんをお預かりし、毎日楽しく生活・見守りを行っています。

4月からは、この施設内に山梨市からの委託を受け

病後児保育として、病後の回復期で、まだ集団生活が困難なお子さんをお預かりする「ひまわり」を開設いたしました。子育てと仕事の狭間にいるお母さん方にとっては、病後のこの期間がとても大変なものです。

「ひまわり」はこんな時、働くお母さんの強い味方になれるものと思います。私たちスタッフは、子供の視点に立ち、子供がゆったりと安心して過ごせる病後保育を実践して行きたいと考えています。

ひまわり／開所日・時間など

実施施設	山梨厚生病院 病後児保育所「ひまわり」 (山梨市落合860 山梨厚生病院敷地内) ☎②1773(直通)
開所日	月曜～土曜日 ※祝日、年末年始(12月29日～1月3日)を除く
利用時間	午前8時15分～午後6時15分
定員	4人
職員配置	看護師1人 保育士1人
利用料(1日)	市内在住者 2,000円 市内在勤者 3,000円 ※生活保護世帯または前年度市民税非課税世帯は無料

*利用方法や対象者等、詳細につきましては、山梨市役所「少子対策課」までお問い合わせください。

消化器内科を紹介します

消化器内科 部長 久保 克 浩

朝（夜中?）から吐血とか血便の患者様の緊急内視鏡検査～止血処置。その合間に予約の内視鏡検査。CT検査で総胆管に石がつまっていれば、その日のうちに石を採るかドレナージ。横の検査室では、大腸のポリープを切除中。----- 気がつくともう17時過ぎ -----

「そうです、消化器内科はとにかく検査・処置が多いのです。」

このような日常の中、医師をはじめスタッフ一同毎日頑張っています。ではもう少し詳しくお話しします。

[消化器疾患]：日頃から消化管内視鏡検査では、患者様に負担が少なく、かつ精度の高い検査を目指しています。上部消化管においては、細径の経鼻内視鏡（鼻から挿入するタイプの細い管の内視鏡）を用いて、ほとんど嘔吐反射（吐き気）を誘発せず苦痛の少ない検査が可能です。

下部消化管においては、たわみ（腸間膜の過伸展）が少ない挿入テクニックを用いることにより、思ったより苦しくないと言われている患者様から言われています。

内視鏡的治療（内視鏡を使った手術等）では、最近増加傾向にある大腸がんの前がん病変である腺種（ポリープ）の切除手術を多数行っています。

[胆道・すい臓疾患]：患者様の症状・診察所見・血液データ・腹部超音波・CTの画像等々をもとに診断します。

「総胆管結石破碎術」「胆道ステント挿入術」等、この領域でも意外に緊急の内視鏡的処置を必要とすることが多々あります。

[肝臓疾患]：慢性B型肝炎に関しては抗ウイルス療法、慢性C型肝炎に対してはインターフェロン導入を積極的に行っています。肝臓がんに対しては、内科的には「ラジオ波焼灼療法」「肝動脈塞栓術」等を行っています。

当院は、「日本消化器内視鏡学会指導施設」の認定を受けています。県内他施設からの見学・研修希望者も少なくなく、可能な限り広く受け入れるよう努めています。しかし、決して流れ作業的な検査をするのではなく、症例ごとに必要不可欠な検査を行い、全身状態を考慮しての診断、治療方針の選択を心がけています。また消化器外科をはじめとする他科との症例検討会等を通して、外科系医師との連携もスムーズに行われています。

以上、消化器内科の仕事の一端をご紹介します。こんな当科ですが、今後よろしくお願いいたします。



左上から

- ・澤田 威生（医師）
- ・清水 健吾（医師）
- ・久保 克浩（医師：診療部長）
- ・斉藤 晴久（医師）
- ・古谷 英人
（医師：山梨市立牧丘病院）

左下から

- ・上原 好光（看護師）
- ・相馬美智留（看護師）
- ・大田加代子（看護師）
- ・矢崎はる美（外来師長）

～こんにちはは薬局です～

薬局 薬局長 雨宮 美智子

私たち病院薬剤師が病院の中でどのような仕事をしているかご存知ですか？安全で効果的に使用されるように、すべての薬について関与しています。薬を通して患者様により安心して医療を受けられるように、そして一日も早く回復できるように責任を持って仕事をしています。

「これは何の薬だっけ」「この薬、なんとなく心配」「この使い方でいいのかな」そんなふうに思ったことはありませんか？ 私たちは皆さんのそんな疑問や不安が少しでも解消されるように、薬についての説明もしています。薬について相談できるもっとも身近な存在として、どうぞ薬剤師に声をかけてみて下さい。

【調剤室スタッフ】



左から 武川・秋山・窪田・雨宮（薬局長）・古屋
小林・天野・薬袋（副主任）・中村

地下にある薬局内では、基本的に、入院している患者様の薬を調剤しています。もちろんその中には点滴も含まれており、薬の量は適当か、その薬は混ぜても大丈夫か、等々いろいろな角度からチェックします。疑問点は医師らと話し合っ解決し、看護師や他のスタッフと連携をとって、皆さんによりよい薬物療法が行われるように働きかけています。

もちろん普段の薬剤管理として、必要な在庫の確保や、温度や使用期限の管理なども大切な仕事です。また、商品としては存在しない薬剤を原料を組み合わせて作ることもあります。

薬の効果はもちろん大きいですが、使い方を間違えると大変な事故につながります。取り扱っている「くすり」の重要性を噛み締めながら日々、真剣に取り組んでいます。

～化学療法ミキシングルームの紹介～

ミキシングルームは、1号館新棟2階、第2処置室の一角にあり、外来・入院で使用する化学療法剤（注射薬）の溶解・混合などの調製を行っています。ミキシングチーム3名の薬剤師のうち2名が常駐し、専門の設備を使用し、清潔な環境の中で患者様に「正確」「安全」な薬剤を準備できるように日々努力をしています。ミキシングルームを出て薬局に戻るまで息のつかないそんな毎日です。

【ミキシングルーム】



【ミキシングルームスタッフ】



左から 窪田・中込(主任)・塩沢

よろしくお 願 い しま す !

今春、山梨厚生会に入職した28名のニューフェースを紹介します。皆さんよろしくお 願 い します。
～ 院内で見かけたら「頑張ってる?」と声をかけてあげてください。～

【看護部】



向って左上より（配属先）

須田貴子（1-4）～患者様に慕われる看護師になります。
藤原可奈（1-4）～笑顔で頑張ります。
藤原真理（1-4）～明るく元気に仕事のできる看護師を目指します。
芦澤綾香（1-5）～笑顔を忘れない看護師を目指します。
中村友紀（1-5）～温かく思いやりのある看護師を目指します。

左下より

小俣智栄（1-3）～早く活躍できるよう頑張ります。
宮澤由貴（1-3）～常に笑顔を忘れずに、優しい看護師を目指します。
龍澤奈央（手術室）～笑顔で根気強い看護師になるぞ
芦澤静香（手術室）～誠実を根底に頑張ります。

【看護部】



向って左上より（配属先）

角島 彰（2-4B）～一生懸命、頑張ります。
名取幸子（2-4B）～明るく優しい看護師を目指します。
中島智恵美（3-2）～体と心を病む人の温かい支えになれるよう頑張ります。
荻原三重子（塩山市民 HP）～優しく親切で丁寧な看護師を目指します。
井上沙織（塩山市民 HP）～思いやりの心を持った看護師になります。

左下より

萩原まゆ美（2-1）～笑顔を大切に頑張ります。
石原由美（2-3）～笑顔を心がけて頑張ります。
松永由香里（2-3）～まずは一歩ずつ、一つずつ――
渡邊珠希（2-4A）～自分なりに精一杯努力します。

【技術部・事務部】



向って左上より（配属先）

饗場 恵（塩山市民 HP）～安心感を持たれる笑顔で頑張ります。
萩原星子（牧丘 HP）～いつでも笑顔を忘れないようにします。
長谷川梓（医事部）～患者様から親しみを持っていただける対応をこころがけます。
中村浩二（塩山市民 HP リハビリ室）～患者様から信頼される理学療法士を目指します。
橋田昌人（塩山市民 HP 薬局）～明るく、元気に頑張ります。
左下より
古屋貴子（医事部）～笑顔で親しみを持ってもらえるような対応を心がけます。
堀内志保（医事部）～明るく、笑顔で患者様に接するよう心がけたいです。
小林恭子（薬局）～仕事に誇りを持って頑張ります。
小澤佳純（臨床工学室）～一つ二つと進歩していきたいと思ひます。
中澤美佳（医事部）～早く仕事に慣れ、頑張りたいと思ひます。

～ 心配しないで五月病!～

若葉輝く五月、それと対照的にちょっと浮かぬ顔もチラホラ・・・。「五月病」という言葉がすぐに思い浮かぶ人も多いのではないのでしょうか。

五月病とは正式な医学用語ではなく、GWのまとまった休みをきっかけに溜まっていた疲れが表にドット出たりするので、この呼び方がついたと言われていますが、本来新しい環境に入った人ならば、時期に関係なくいつでも誰にでも起る心身の不調です。主な症状としては

【からだの面では】～ 疲れやすい・朝起きられない・食欲がわからない・めまい／動悸／頭痛／腹痛／便秘、眠れない

【気持ちの面では】～ 何か焦りがある・イライラする・やる気が出ない・不安感／憂鬱感／倦怠感何をするのも面倒で億劫・思考力や判断力の低下

新しい環境での生活というのは、自分で感じている以上に負担がかかっているものなんですね!

でも大丈夫～これをキッカケに一息ついて(新環境に必死に合わせるだけでなく)自分らしさを取り戻す時間を持つよう生活を見直してみましょう。決して焦ることはありません。誰かに相談することも大切です。周りの人も「怠けている」などと思わずに、よく話を聞いてあげてください。そうすれば大抵は2～3週間で回復していきます。それでもなかなか回復せずに長引く時は、早めに専門家に相談しましょう。

職員の方は、気楽にストレス相談室「ゆうゆう」を利用してください。

臨床心理室 竹居 栄子

初夏はさっぱりと!(梅と青じその効用)

春に花を楽しんだ梅が、初夏が近づくにつれ、実をつける季節となりました。思わず口をすぼめてしまう梅干しのあの酢っぱさのもとにはクエン酸で、糖質の代謝を促し、疲労物質としてたまった乳酸を燃焼してエネルギーに変える働きもっています。梅干しを食べると疲れが取れると言われるのは、このクエン酸のおかげです。またクエン酸は強力な殺菌・抗菌効果を持つため、昔からお弁当やおにぎりに梅干しが付き物なのもこうした殺菌効果を利用した事なのです。

青じそは刺身のツマや冷やっこの薬味など、どうしても地味な役回りが多いものですが、有効成分がたくさん詰まった野菜なのです。βカロチンとカルシウムは野菜類の中でもトップクラスの含有量で、ビタミン B1、B2、C、カリウム、鉄分なども豊富です。あの独特の香りと色彩が食欲を刺激して胃液の分泌を促し、食欲増進に一役買ってくれます。単なるつけあわせとしてでなく、高い栄養価を持つ、優れた野菜として利用したいものです。

そこで梅肉と青じそを使った簡単なお料理を紹介します。

食欲が落ちるこの季節、上品な酸味で食が進むのではないのでしょうか。

梅しそワンタン



【材料(2人分)】

梅干し 3個 青じそ 2枚 鶏挽肉 100g
ワンタンの皮 12枚
ねぎ(白い部分) 4cm位 カイワレ大根 20g
A(しょうゆ小2 酒大1/2 ごま油大1/2 ラー油少々)

【作り方】

- ①梅干しは種を除き、梅肉を包丁でたたき、青じそのみじん切りと鶏挽肉と酒を混ぜる。
- ②ワンタンの皮に①を包み、熱湯でゆで水にさらす。
- ③器に②を入れ、細く白髪ねぎにしたねぎと、カイワレ大根のをせAをかける。

栄養管理室 飯沼 一美

編集
後記

平成19年度がスタートし1ヶ月が過ぎました。医療を取り巻く環境は決してよいとは言えない昨今ですが、冒頭の理事長のお話にもありました様に、皆の力を結集し、志を高く持って進んでいきましょう。本年度の皆様のご活躍・ご健勝をお祈りしながら、第3号をお届けできたことに感謝して-----

ご意見、自主投稿をお待ちしています。次号は平成19年11月発行の予定です。